

1. 評価結果概要表

作成日 2009年1月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0372200303		
法人名	社会福祉法人紫波会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒028-3307 岩手県紫波郡紫波町桜町三本木46-1 (電話) 019-676-5777		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	その他の実費負担 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 91 歳	最低 87 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立中央病院附属紫波地域診療センター
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人紫波会が運営する事業所の一つである。JR東北本線日詰駅から徒歩10分程で、国道4号線が近くを通過しており交通の便がよい。近隣には同法人が運営する特別養護老人ホームなどの介護事業所と、県立の診療所や民間の脳神経外科が所在し医療環境にも恵まれている。職員は、利用者や家族の思いを大切に、安心して暮らせる環境づくりに日夜取り組んでおり、利用者の素敵な笑顔が見られるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、自己評価表を全職員に配布し、それぞれに意見を出してもらい、評価の意義について理解を深めていたが、さらにサービスの質の向上を図るには「権利擁護」や「虐待防止」関係の理解を深めることが必要であると認識し、改善課題に向けて、研修会を開催し取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでいる。評価を実施する意義は毎月実施するやすらぎ会議などを通して理解するよう努めており、前回課題として認識した「権利擁護」や「虐待防止」の研修会を開催して介護サービスの向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一回開催し、利用者の暮らしの状況やホームでの実施行事の内容などが報告され話し合いが行われている。委員は、利用者、家族、民生委員、行政で構成され意見や要望も出されている。ひとつに「心肺蘇生法」と「AED」の使用方法についての講習会の要望が寄せられ、早速取り入れ実施するなど討議内容を活かした取り組みが行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、ケース記録・生活の様子・ケアプランの実施状況を報告している。金銭管理の状況は面会時に説明してサインをもらうなど家族の状況に合わせた報告をしている。また、職員の異動は、年4回発行の広報やすらぎを活用して報告し、契約時には施設内外の相談窓口や担当者について説明し家族の意見、不安への対応に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺には民家が少なかったが、最近、宅地化が進んできている。地域との連携は、自治会が主催するお花見や秋祭りなどに参加するとともに、ホーム主催の夕涼み会や同法人の特養が主催する夏まつりなどでパンフレットを配布し地域との連携に努めている。また、周辺の人々が散歩でホームの前を通ったときに声をかけてくれたり、職員が声を掛けたりし交流を図っている。なお、法人としては自治会に加入している。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげている。さらに、年度当初に、理念の実現に向けてどう対応するのか話し合い目標や運営の重点として事業計画にあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員でつくりあげたことにより、理解や実践に繋げることが容易になっている。また、月一回のやすらぎ会議や年二回の反省会で目標と重点事項について、課題や改善点を書面で提出し理念の共有と実践に向けて日々取り組んでいる。新入職員には採用時に理念を説明し理解してもらうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会が主催するお花見や秋祭り、産直の祭りに参加している。また、近隣の人が散歩中に声をかけてくれたり職員が声を掛けたりし地元住民との交流に努めている。法人としては自治会に加入している。	○	公民館や消防署など関係機関に広報を配布しホームの理解を図っている。また、周辺の住民には夕涼み会に参加していただき交流に努めているが、最近、ホームの近くにも住宅が建ってきており、行事や散歩を活用して住民に広報を配布するなど、ホームの理解とより幅広い地域との交流を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組んでいる。また、評価を実施する意義は毎月実施するやすらぎ会議などを通して理解するよう努め、具体的な取り組みとして権利擁護や虐待防止の研修会を開催してサービスの向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、利用者の状況やホームの行事予定と実施状況などについて報告し話し合いを行っている。また、会議での要望を取り入れて「心肺蘇生法」と「AED」の使用の講習を行うなどサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内の地域密着型サービス事業所の懇談会や地域ケア会議に参加し町との連携を深めている。また、町から依頼されて地域の介護講座の講師を引き受けるなど利用者のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ケース記録、生活の様子、ケアプランの実施状況を報告している。金銭管理の状況は面会時に説明してサインを頂くなど家族の状況に合わせた報告をしている。また、職員の異動等については、年4回発行の広報やすらぎを活用し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に施設の相談窓口や担当者、施設外の相談窓口について説明し外部者へ表せる機会を設けている。さらに、意見箱も設置しているが利用実績は無い。また、年一回の家族会での意見や要望、運営推進会議での意見などを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	交流のある部署から異動になるよう配慮しているが、異動や離職があったときは、広報やすらぎを活用して家族に知らせている。また、異動や退職された職員がたびたびホームを訪れるなどして後任者と連携し利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が作成した研修計画により、段階に応じた研修を受講している。受講後は、月一回のやすらぎ会議で伝達研修を行っている。さらに、職員から特別研修の受講希望があれば、費用の補助や勤務調整などをして、研修の機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の地域密着型サービス事業者懇談会に参加し同業者との交流の機会を作っている。さらに、県のグループホーム協会に加入し同業者との相互訪問活動を実施して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用者には、自宅に職員が訪問し、安心して利用できるように関係づくりをしている。さらに、家族と相談して利用者がホームに馴染めるよう来訪してもらい、一緒にお昼を食べたり雰囲気に慣れてもらうなどしてから利用してもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に個々にアセスメントをしたうえで、今できそうな得意分野を活かし、食事の調理・洗面所の掃除・行事料理・梅酒づくりなどを見出し一緒に過ごしながらか、感謝の気持ちを「ありがとう」と言葉で表し、学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを導入している。利用者が思いや意向を表すことができない場合は、日ごろの行動や表情から汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回のケアプランの内容を評価し、本人や家族の意見や要望、さらに、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じたときは、申し送り事項で全職員が確認し介護サービスを提供しており、定期のケアプラン作成時に現状に即した介護計画を作成している。なお、変化が生じたときの新たなケアプランの作成までは至っていない。	○	介護サービスの提供は、本人、家族の要望や変化に応じて現場で実践的な対応ができるような介護計画が必要と考えられる。現在、申し送り事項で職員が確認して介護サービスの提供をしているが、変化の兆しに予防的に対応していくためにも見直しの介護計画の作成が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的には健康管理や通院の支援をしており、利用者から要望があれば、墓参りや買い物など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望するかかりつけ医となっており、通院のときは職員が付き添って行き受診結果を家族に報告している。かかりつけ医とは、良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。なお、現在までホームでの看取りを希望された方はいない。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの、医療連携の指針の中で重度化した場合や終末期の対応について定めており、契約の際に家族に説明して意向を聞いている。また、利用者にも気をつけながら時々話題にして、早い段階から全員で方針を共有するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや排せ介助などプライバシーを損ねることがないように、毎月開催するやすらぎ会議でサービスするときの態度や個人情報の取り扱いについて、点検し意識するようにしている。なお、広報の写真掲載については契約の際に同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして、一日の流れについて計画を作成しているが、利用者のペースを大切にしており、決まりや都合を優先するのではなく、利用者のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考え、食事の調理・盛り付け・後片付けを行い活躍の場面をつくっている。また、食事は職員と利用者がテーブルを囲み食事中は「ありがとう、おいしいね」などと声を掛け合い、食事が楽しみなものになるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月・水・金の午前10時から午後5時ごろまでと一応決めているが、利用者の希望やタイミングにあわせて自由に入浴できるようにして楽しめるよう支援している。なお、ほかの利用者の見守りが必要な時間帯に希望された場合は説明して納得してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力を活かした食事の調理や掃除などの場面をつくったり、生活歴から縫い物や編み物、ぬりえなどの特技を見出しそれとなく楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自ら出かけない利用者や車椅子の利用者には戸外に出かけられるように声をかけたり、希望があればソフトクリームを食べに行ったり、ドライブでは神社や滝を見に行ったりして戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜の7時から朝の7時までは鍵をかけている。管理者や職員は日中鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年度の避難訓練は、夜間に併設の特養の職員や医療機関の職員・地域の住民の方に参加してもらい実施している。今年度は計画の段階である。また、通報装置も備えられており、利用者が避難できるよう訓練している。	○	利用者と職員の避難訓練、夜間の通報訓練など積極的に実施している。また、地元の人にも参加してもらい協力を得られる体制づくりに取り組んでいるが、最近、近くに新しい住宅も建設されてきていることから、広報を活用するなどして協力を得られるよう今後の取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂取状況を観察しながら、栄養のバランスや水分量が確保できるよう習慣に応じた支援をしている。なお、体調の悪い利用者場合はチェック表を作成し対応している。また、献立表は随時栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアに食堂と居間としての空間を設け、居間としてはソファと畳敷きのくつろぎの場所をつくっている。天井は高く明かり窓を設置し、不快な光や音がないよう配慮している。テーブルや壁に花や絵などを飾り、台所は調理の音や香りが感じられるように、季節感や生活感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家具調度品や仏壇など使い慣れたものが配置され、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		